



かわせみ通信

4月号
2021年4月
Vol.140

発行所  株式会社 東海テクノ ECOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)
TEL.059-332-5122(代) <https://www.tokai-techno.co.jp>

振り返れば「現在(いま)」がいる ～過去から学ぶ、未来のかたち～

柔らかな風が木々の幼い緑をゆする季節、真新しい制服やスーツに身を包んだ笑顔のフレッシューズが街中に溢れて…いるはずが、今年も寂しげな春となってしまった。新入学の1年生は、自分が体験したこの出来事を近いうちにきっと教科書で目にするようになるだろう。僅かな年月で世の中がすっかり変わってしまった訳だが、今回このコラムを担当するにあたり、これまでのバックナンバーを読み返してみた。このコラムは2009年9月のかわせみ通信創刊以来、当時社長だった故・市田淳一が毎月独自視点の環境ネタを執筆してきた。これまでこのかわせみ通信で描いた未来予想図を、毎回奇想なタイトルともに、敬意を表してプレイバックしてみようと思う。

創刊号(2009年9月)

新型インフルエンザ対策で注目される「光触媒活用」

奇しくもテーマが新型インフルエンザ対策。2mのソーラールディスクにも触れていた。

Vol.9(2010年5月)

急がば回れの里海再生。～養殖産業の持続可能性への挑戦～

気候変動による環境悪化懸念について触れたが、生産量低下を止めることはできず。10年後の昨年、当社はスジアオノリの陸上養殖を開始した。

Vol.23(2011年7月)

アウトブレイクの犯人捜し～技術を駆使した時間との戦い～

細菌検査に用いた遺伝子検出法や、今や誰もが知る事になったPCR法について触れた。

Vol.32(2012年4月)

あえて「鍛造型技術」指向と呼びたい～技術は現場で伸びる?～

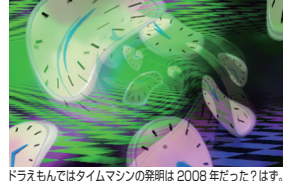
完全人工光型植物工場技術に際し、垣根を超えた異業種参入経緯を取り上げた。まだ世に出るには早い部分としていたが、昨夏には世界最大の同型工場が静岡で操業開始した。

Vol.60(2014年8月)

10年後の車にエンジンはあるか?～国産バイオ燃料の夢の終わりと新たな挑戦～

2020年バイオ燃料をガソリンの3%相当以上に導入する目標、シェールガス革命による安価なCNGについて記載されたが、原油生産調整、情勢変化で思い通りになっていないのわかる。

など、是非この機会にHPのバックナンバーもご覧いただきたく。他にも旬の「奴」がいるはずだ。



ドラえもんではタイムマシンの発明は2008年だった?はず。

ココに技あり!

ひらめきを仕事に活かす! 滑車とエレクターパイプで作業負担減

当社の基幹事業である環境分析。それにはサンプル採取業務が不可欠ですが、これがかんりの重労働。とある調査における河川水サンプリングの場合、約170Lを橋上より採水缶を用いて汲み上げます。採水缶の容量が5L、SUS製の採水缶重量を含めた約6kgの重さを34回以上腕力で引き上げることになります。この重労働に対して「滑車」を使うことで、作業時間は2/3に短縮、疲労感も1/3程度に。更に採水缶が欄干に当たらないように、ホームセンターでエレクターパイプを購入し、組み合わせることで、この業務に欠かせないアイテムが完成。業務の負担軽減に向けた改善を日々続けています。



テクノの横顔 ～社外でも活躍しています～の巻 vol.5

①国内外来種についての調査・研究に参加(四日市 フィールド Gr 野口)

「国内外来種」とは、国内の自然分布域外から人為的に持ち込まれた生物のこと。従来から生息する生物に遺伝子汚染をもたらし、生態系に影響を与える場合があるため、調査が行われています。今回、三重県菟野町において、調査研究・執筆に参加した論文『三重県北勢地域における国内外来タビラAcheilognathus tabira類の確認と遺伝的特徴』が日本魚類学会の魚類学雑誌に受理され、科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)上で早期公開されました。今回菟野町で調査したタビラ24個体はDNAより北陸や山陽地域より持ち込まれた種であり、三重県北勢地域に生息していない国内外来種であるという報告内容になっています。

記録・調査報告 Note

魚類学雑誌 DOI:10.11369/j.20-034 J-STAGE 早期公開版 (2021)

三重県北勢地域における国内外来タビラ Acheilognathus tabira 類の確認と遺伝的特徴

②我が家のグリーンカーテン(四日市 フィールド Gr 松野)

令和2年度の四日市市「グリーンカーテンフォトコンテスト」で「優秀賞」をいただきました。我が家は20年前に、よしず代わりにゴーヤのグリーンカーテンを始めました。市街地との温度差、屋外との温度差それぞれ-2℃を実感して以降毎年続けています。ゴーヤはいわゆるひとり生えて、種が落ちて勝手に生えてくるので苗の購入費用は不要。地球にだけではなく、家計の財布にも優しい夏の暑さ対策です。本格的な夏に向けて、準備を進められてはいかがでしょうか。



社員プチコラム

瀬古 万里(環境事業本部 四日市分析センター 応用ラボGr)

コロナで自粛期間中、皆さんはどのようにリフレッシュしていますか?以前は週に3回ほどジムに通い無心で走り込み、汗をだらだらかいてリフレッシュしていました。しかしこの1年はジムも数か月休業となったり、行くことができなくなり、さて、どうしようかと考えたときに家に同じような運動器具をいれてしまえばいい!という結論に達しました。運動器具といえばやはりまずはランニングマシンでしょう!ということで写真のものを購入しました。現在はこの器具で汗をかきつつリフレッシュしています。今後は他の器具を増設計画中です。



編集後記

テクノの横顔の受賞写真には、昨年17歳で亡くなった松野家の愛猫がお行儀よく座っています。暑さに敏感と言われる猫もグリーンカーテンのお陰で縁側に出てきていたようで、受賞は遺してくれた最後の贈り物とのこと。心温まるエピソードですね。今後も社外での活躍をご紹介することで、個性豊かな社員の横顔をお伝えできればと思います。(みっちゃん)